新潟支援報告書

<table>
<tr><td>所属名</td><td colspan="2">危機管理室</td><td>報告者</td><td>田 中 丈 之（３５歳）</td></tr>
<tr><td>派遣期間</td><td colspan="4">平成１６年１１月６日（土）～ 平成１７年１１月１２日（金）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">派遣先</td><td>市町名</td><td colspan="3">小千谷市</td></tr>
<tr><td>場所・部署等</td><td colspan="3">小千谷市役所</td></tr>
<tr><td>支援活動
（箇条書き）</td><td colspan="4">小千谷市役所からの要請による災害救助法等、震災後初動期における小千谷市の対応・事務全般に関する支援業務。第３次派遣グループとして派遣される。主な支援のテーマと活動の概要は以下のとおり。
＜支援テーマ＞
１．応急仮設住宅の建設・管理　　２．避難所の運営と収束の検討
３．り災証明の発行に関する事務　　４．被災度判定調査に関する事務
＜活動概要＞
11 月 6 日（土）：①移動　②派遣挨拶・打合 ③事務引継　等
11 月 7 日（日）：①避難所状況調査 ②仮設住宅建設状況調査 ③後発隊受入れ
11 月 8 日（月）：①避難所状況調査 ②川口町との情報交換 ③小千谷市意見交換
11 月 9 日（火）：①新潟県による「災害救助法等に関する事務手続き説明会」出席
11 月10日（水）：①仮設住宅建設予定地調査 ②避難所状況調査 ③保健師と意見交換
11 月11日（木）：①仮設住宅建設予定地調査 ②今後の小千谷市支援の意見交換
11 月12日（金）：①帰神　②危機管理室で派遣終了報告　等</td></tr>
<tr><td>課題を
含めた
感想等</td><td colspan="4">＜震災復興支援に関する神戸市の課題＞
①災害支援を通じた阪神・淡路大震災未経験職員の研修
・私は震災未経験職員であるため、阪神・淡路の教訓の発信は困難であったが、話や記録でしか知り得なかった、行政の災害復旧、復興の取り組みを肌身に感じることができたことは貴重な経験であった。
②被災自治体支援職員全体を一括でマネジメントする仕組みづくり
・神戸市が被災地支援を決定するための要請ルートとして、新潟県中越地震関係で思いつくだけでも、兵庫県経由の県内市町村職員派遣要請、震災バンク活用に至った被災市町村からの直接職員派遣要請、その他全国水道局応援協定にもとづく応援職員派遣要請、応急危険度判定協議会からの判定職員派遣要請、国土交通省等からの災害査定員要請　等々があり、これらの複雑な支援ルート、多様な支援職種に対して、内部調整等を行いながら派遣を行ったため、タイムラグや被災自治体ニーズとのズレが生じた面が見られた。
・今後、さらに、「絆ネットワーク」活用要請が加わることも想定されるため、これらの被災地要請ルート全体を見渡し、神戸市の支援職員をマネジメントする仕組みが求められる。</td></tr>
</table>